残念ながら、そして予想通り、上記のように、このビデオは後に削除されました。
そしてなぜか、米国の学術医療制度は、このビデオを完全に無視したのです。
私たちの発見や勧告は完全に無視され、代わりに大規模な RCT が資金を提供するのを待つことになりました。

(NIH-Pharmaの複合体によって資金提供された大規模なRCT（タイプミスではあり ません
）を待つことを好んだのです。

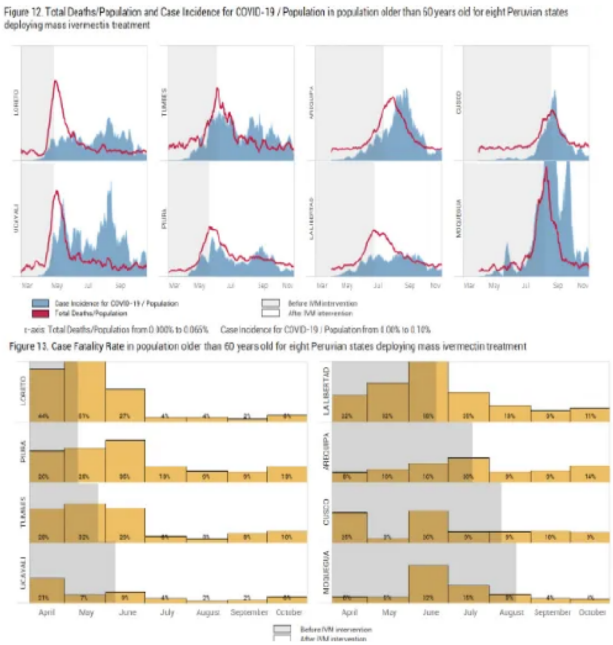
2020年10月 トライアルサイトニュースとJuan Chamieのプレを発見する。
ペルーのイベルメクチン配布を分析した論文を発表。
PROGRAM

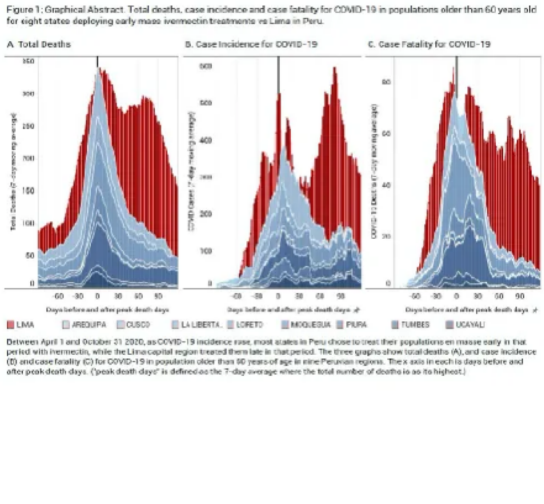
トライアルサイトニュースで発見した記事と、その分析がなければ、私は本当にそう思います。
の分析がなかったら、私たちはもっと早く、もっと早く、このことを知らせたと思います。
がなければ、もっと冷静で、穏やかで、慎重なものであったろうと思います。しかし、その後
南米でイベルメクチンが成功しているという多くの報告書を発見したのです。
2020年3月からトライアルサイトニュースが発表した国々を読み、そして
2020年10月初旬に投稿されたChamieの論文を見て、私は変身した。

ペルーのテイタ作戦に関するファン・チャミエらの論文は、私にとって、最も早い時期の
イベルメクチンの広範な配布がもたらす影響について、最も早く、そして最も説得力のある証拠を示しています。
彼の論文が、世界中の公衆衛生機関によって認識され、適用されていたのであれば、私は、この論文 を読みました。

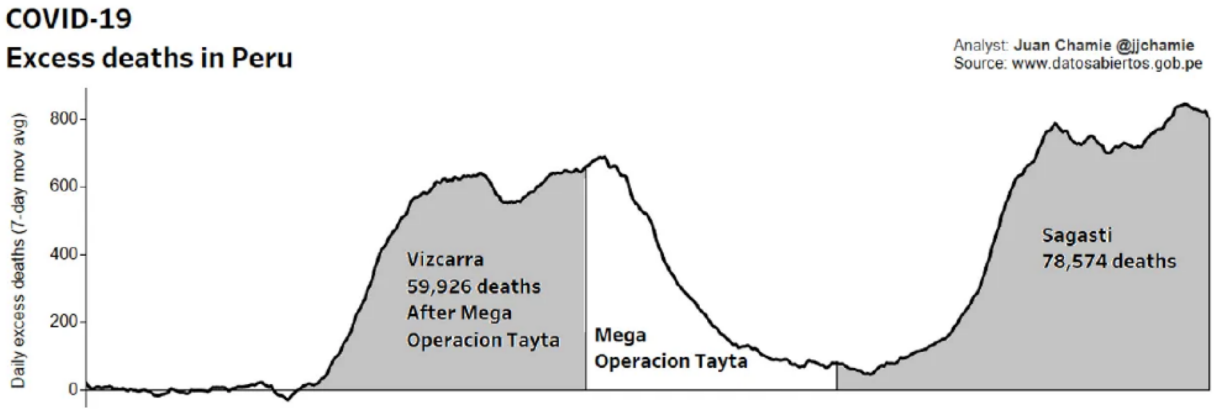
パンデミックはすぐに終わっていただろう。グラフは急落している

死亡数と症例致死率のグラフは、様々な異なる感染症が発生してから平均して11日目から始まっている。
その地域でイベルメクチンが配布された時期の平均11日後から、死亡率と症例致死率が急落しているグラフは、めちゃくちゃ説得力があった。





残念ながら、テイタ作戦を承認したビスカラ大統領は、後にこの作戦を中止することになった。
11月の選挙で落選した。サガスティ新大統領はこの作戦を中止する。事例と
が急増し、FCCC のアナリスト Juan Chamie が詳述している。



フアンの分析結果は、私たちが「ディアボロス」の研究から知っていたことを、力強く、現実の世界で証明してくれました。

験データからわかっていたことを、現実に即して強力に証明した。イベルメクチンは、予防と治療の両方に広く展開されれば、次のようなことが可能になる。

が、パンデミックの様相を一変させる可能性があります。そこで、私は猛烈な勢いで
の証拠となるさまざまな情報源をすべてまとめるつもりで、猛烈な勢いで論文 を書き始めた。
そして、それを世界に発表したのです。

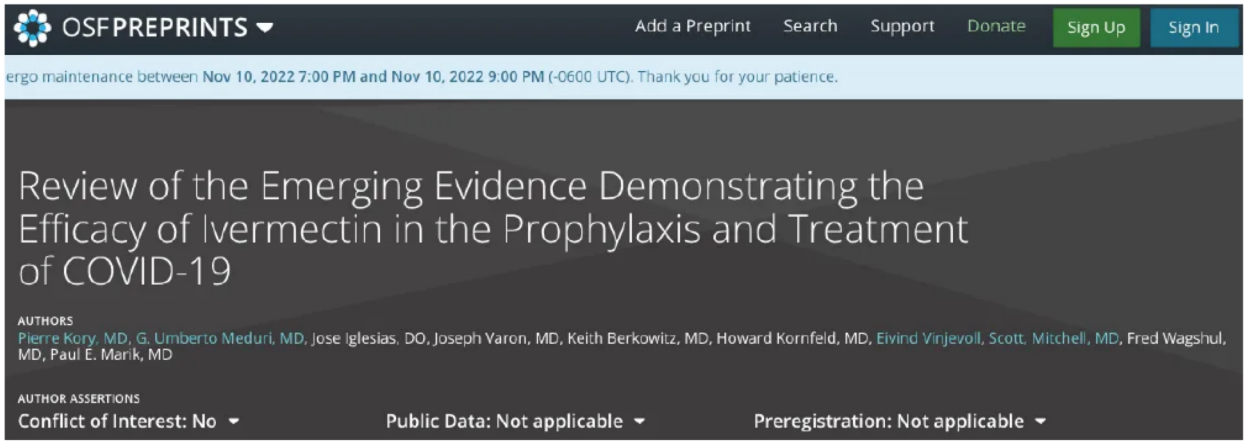
こうして、私のキャリアにおいて他に類を見ない、4週間にわたる熱狂的な仕事が始まった（もし、あなたがこのことをご存知であれば、私はこのような仕事をすることになるでしょう）。

というのも、私は以前から「ワーカホリック」（仕事中毒）に悩まされていたからです。

というのも、私は医者になる以前から「仕事中毒」に悩まされていたからです）。当時、私は大手医療機関でフルタイムのシフト勤務をしていました。

そのころ私は、ミルウォーキーにある大手の医療センターでフルタイムのシフト制で働きながら、次のような研究を検索し、読み、分析していました。

その約1ヵ月後の11月13日、私はミルウォーキーの大手医療センターでフルタイム勤務をしながら、ほぼ毎日のように出てくる研究を検索し、読んで分析していました。それから約1カ月後の2021年11月13日、私は
を含む、包括的なナラティブ・レビュー論文の第一稿をアップロードしました。
予防と治療の両方の試験について、非常に肯定的なメタアナリシスを行いました。
と、Chamieの疫学的な分析が含まれていました。それは今でもそのプレプリントサーバーに置いてある。



FLCCCのイベルメクチンの旅は始まったのである。

2020年12月4日 FLCCCのヒューストンでの記者会見
イベルメクチンを世界に紹介する

ポールのYouTube講演から数週間後、私が論文の執筆に取り組んでいる間に、私たちの最初の初期治療プロトコルが作成され、初期投与は超慎重に行われました。
イベルメクチンについて学んだばかりで、複数日投与は斬新だったため、最初の投与は超慎重でした（私たちはすぐに、そして
に応じて投与量や投与回数、投与期間を何度も増やし続けました。
の重症度やウイルス量に応じて、何度も投与量や投与頻度、投与期間を増やし続けました（一方で、すべての「高品質
ビッグファーマ／NIHの臨床試験はすべてその逆でした）。これは最も古いバージョンの一つです。
このプロトコルでは多くのことが変更されているので、私たちの最新のバージョンはここにあります)を使用しないでください。

FLCCC ALLIANCE

FRONT LINE COVID-19 CRITICAL CARE ALLIANCE
PROPHYLAXIS & TREATMENT PROTOCOLS FOR COVID-19

I-MASK+

PROPHYLAXIS & EARLY OUTPATIENT TREATMENT PROTOCOL FOR COVID-19

Page 1/2

PROPHYLAXIS PROTOCOL

Ivermectin	*Prophylaxis for high risk individuals* 0.2 mg/kg* – one dose on day 1 and day 4, then take one dose every 4 weeks *Post COVID-19 exposure prophylaxis*** 0.2 mg/kg* – one dose on day 1 and day 3
Vitamin D3	1,000-3,000 IU/day
Vitamin C	1,000 mg twice a day
Quercetin	250 mg/day
Zinc	50 mg/day
Melatonin	6 mg before bedtime (causes drowsiness)
Aspirin	80-100 mg/day (unless contraindicated)

EARLY OUTPATIENT PROTOCOL***

Ivermectin	0.2 mg/kg* – one dose on day 1 and day 3
Vitamin D3	4,000 IU/day
Vitamin C	2,000 mg 2-3 times daily
Quercetin	250 mg twice a day
Zinc	100 mg/day
Melatonin	10 mg before bedtime
Aspirin	325 mg/day (unless contraindicated)

Behavioral Prophylaxis

WEAR MASKS

Must wear cloth, surgical, or N95 mask (without valve) in all indoor spaces with non-household persons.

Must wear a N95 mask (without valve) during prolonged exposure to non-household persons in any confined, poorly ventilated area.

KEEP DISTANCE

Until the end of the Covid-19 crisis, we recommend keeping a minimum distance of approx. 2m / 6 feet in public from people who are not from your own household.

FLCCCのプロトコルは確かに注目されていましたが、浸透していませんでした。
しかし、症例数や入院数が増加する一方で、「システム」には十分に浸透していない。
になっていた。さて、検閲はまだ完全に展開されてはいなかったのですが、（このままでは

まだ検閲は完全には行われていませんでしたが（時間とともにもっとひどくなる）、私たちはまだ大衆に十分な情報を伝えられませんでした。

そこで、私たちのコミュニケーション・ディレクターであり、FLCCCの共同設立者の一人であるジョイス・カーメン（Joyce Kamen）は、こう言いました。

そこで、コミュニケーション・ディレクターで、FCCCの共同設立者の一人であるジョイス・カーメンが、記者会見を開いてプロトコルを発表し、多くの人に知ってもらうことを提案しました。

と提案されました。これは、他の団体で少しばかり

これは、同じような名前の別の組織（America's Front Line Doctors AFLDS）が5ヶ月前に行ったことでした。

にHCQの有効性に関するニュースを広めるために、ワシントンDCで行ったものだ。
の検閲を受けたが）。
YouTube、Facebook、Twitterで検閲され、メディアから嘲笑され、攻撃された。
academia as in this clip).

しかし、どんなに攻撃されようとも、それは「真実」を世に知らしめたのです。そこで、私たちは

を試みたのです。FLCCCの共同設立者の一人であるジョー・ヴァロンには、多くのメディアとテレビ局のコネがあった。

Covidのエキスパートとして、ヒューストンのメディアやテレビと強いコネクションを持っていました。彼は

Covidハンター ”とユーモアたっぷりに名乗り、1日に13回ものTVやラジオのインタビューに応じました。

とユーモアたっぷりに名乗り、一時は715日連続でICUを運営したこともありました。

娘の結婚式のためにカンクンに行かなければならなくなったため）。

というわけで、ヒューストンに行ってきました。以下は、記者会見の電子プレスキットです。

という私たちが制作した初期の短いドキュメンタリー（11分）へのリンクがあります。

”イベルメクチンとは何か” このドキュメンタリーでは、イベルメクチンの歴史的な発見をレビューしています。

イベルメクチンの歴史的発見、その開発、そして最初のヒトへの応用を紹介しています。基本的には、イベルメクチンが以下のようなものであることを示しています。

が、歴史上最も重要な公衆衛生の進歩のひとつになったことを紹介します。

を駆除し、何百万人もの人々の健康状態を一変させました。

河川失明症や象皮病のような醜い、身体障害者の状態を取り除いたのです。

また、上に書いたように、記者会見の間、私とポールは
マスクをしていました。それを見ていると胸が痛くなるのですが、私は信じています。
もしそうでなかったら、私たちはマスコミに「殺される」ところだったのです。以下はその様子です。
記者会見は本当にパワフルでした。

DISINFORMATION RESPONSE

Disinformationの対応は、無反応だったと言えるでしょう。何かその
ジャーナリストのアイボリー・ヘッカーは、当初、放送中に辞職を表明したことで有名ですが、その後、このような事態になりました。
フォックス・ニュースの放送局を辞めたことで有名ですが、それ以来、検閲ということを強調しようとしています。
を強調しようとしている。全国レベルで検閲されたにも関わらず、私は
特に地元ヒューストンや中部地方に大きな波紋を投げかけたと言えるでしょう。
南米のスペイン語放送のメディアで。しかし、私たちは努力しました。

2020年11月19日 ロン・ジョンソン上院議員初の母国訪問
早期治療の重要性についての公聴会

ジョンソン議員が初めて私に接触したのは2020年の4月、彼が出会ったのは
FLCCC のウェブサイトで、私たちの積極的な併用療法による病院での治療について紹介されました。
MATH+と名付けたプロトコルを紹介しました。私は、上院議員という事実に感銘を受けたものの
というのも、その当時、上院議員であった私が、私 に連絡を取ることを選んだからです。
としてウィスコンシン大学の外傷・生命維持センターのメディカル・ ディレクターを務めていたからです。
また、ウィスコンシン大学は世界でも有数の研究機関であり、クリティカ ル・ケア・サービスのチーフでもありました。
の一つである。彼の地元ということもあり、私に声をかけてくれたのです。
（ラッキー・ピエール）。問題：当時、私はリベラルなニューヨーカーとして洗脳されていた。として
の生涯読者として、私は上院議員を憎むように十分に訓練されていた。
しかし、この問題はとても重要だったので、私は電話を受けた。

が何かおかしいということは、その最初の会話から明らかだった。
彼はアメリカの対応がおかしいことを知っていて、それを何とかしたいと 思っていたのは、最初の会話から明らかだった。優勢なのは
米国で一般的な「支持療法のみ」のアプローチ（つまり、「製薬会社の RCT が出るまで何もしない」というもの）。
のみで、輸液、タイレノール、酸素、人工呼吸器などに頼っていて、 何もしていないのです。
に頼っていたため、ICUは混雑し、患者は何週間も寝たきりになっていました。
になっていました。数分もしないうちに、私はこの人と彼の言うことが好きにならずにはいられませんでした。
を好きにならずにはいられませんでした。その最初の会話で彼が言ったことが忘れられない。
彼はこう言ったんだ、「医者には手袋を脱いでもらいたいんだ！」。その通りです。